

午前 9:00 ~ 12:00
(初診午前 11:30 まで)

午後 2:30 ~ 6:30
※日曜のみ午後 3:00 ~ 6:30
(初診午後 6:00 まで)

日	月	火	水	木	金	土
☺	☺	☺		☺	☺	
☺	☺	☺		☺	☺	

2012年 1月

日	月	火	水	木	金	土
1 休診	2 休診	3 休診	4 休診	5 全日	6 全日	7 休診
8 全日	9 休診	10 全日	11 休診	12 全日	13 全日	14 休診
15 全日	16 全日	17 全日	18 休診	19 全日	20 全日	21 休診
22 全日	23 全日	24 全日	25 休診	26 全日	27 全日	28 休診
29 全日	30 全日	31 全日				

★1月5日(木)より通常診療開始いたします。★9日(月)は祝日のため、休診となります。

2012年 2月

日	月	火	水	木	金	土
			1 休診	2 全日	3 全日	4 休診
5 全日	6 全日	7 全日	8 休診	9 全日	10 全日	11 休診
12 全日	13 全日	14 休診	15 休診	16 全日	17 全日	18 休診
19 全日	20 全日	21 全日	22 休診	23 全日	24 全日	25 休診
26 全日	27 全日	28 全日	29 休診			

★14日(火)は、11日(土)の振替休日として休診させていただきます。お間違のないよう、お願いいたします。

当院サイトにも情報を掲載しています。
どうぞご利用ください。



あずさわせいけい ひとつこむ
<http://www.azusawaseikei.com>

〒174-0051
東京都板橋区小豆沢2丁目36-13
マツエククリニックビル 5F・6F

あずさわ通信 第38号 [2012.01.01 発行]

あずさわ おもてなしの医療

TEL: 03-5916-4970 FAX: 03-5916-4977

発行元: 小豆沢整形外科

あずさわ通信

2012年

1月1日 発行 第38号

あずさわ 小豆沢整形外科 おもてなしの医療



明けましておめでとうございます
今年一年の皆様のご多幸をお祈りいたします。

数年前から、「2012年人類滅亡説」という終末論が世界的に広がり、人類滅亡を真実と考へて真剣に悩んでいる人が世界中に増えているようです。アメリカ NASA には滅亡説に関する質問メールが何千通も寄せられ、担当者は対応に苦慮しています。

昨年、未曾有の大震災を受けた我が国でも、「今年はいよいよ…」と不安になっている方もおられるかと思いますが、大丈夫です。滅びません。

結局、ビジネスでした

なぜそう断言するかというと、「2012年滅亡説」なるものは全く根拠のない空想であり、人々の恐怖心をあおってひと儲けをもくろむ出版業界や映画産業のビジネス戦略であることが明らかだからです。このような「終末説」は、過去何世紀にもわたって繰り返されてきたものと同類です。最近では 1980 年代後半に世界の終りを予言した人がいましたが、結局何も起きませんでした。1999 年ノストラダムス大予言の時も世界中が怯えました、無事 2000 年を迎え、早くも 12 年が過ぎました。

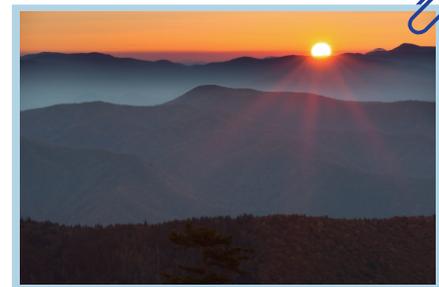
古代マヤ暦の意味

そもそも 2012 年滅亡説が「根拠」とする原点は、中南米の古代マヤ文明の伝承にあります。古代マヤ暦では、長短様々な周期のサイクルがあり、中でも重要なのが 5125 年 (187 万 2000 日) 周期の長期暦です。マヤでは、現在のサイクルの起点は紀元前 3114 年 8 月 11 日としており、この日から 187 万 2000 日目(2012 年 12 月 21 日頃)に、周期の区切りを迎える、とされます。ただこれは、単に一つの時代が過ぎ、次の新たな長期暦が始まるという意味に過ぎません。現地(グアテマラ)マヤ族子孫の長老アポリナリオさんは、世界中の取材記者から「2012 年、世界は滅びるか?」という質問攻めに遭い、ほとほと困り果てています。彼は「マヤが人類滅亡を予言したことは一度もないのに」と言っています。

一つの区切りに過ぎない

一つの周期の終り頃、というのは、いつの時代も不安を呼ぶようです。しかし、大抵は何事もなく時は過ぎ、新しい周期に入っていきます。

今年 2012 年、たとえ何かが起きても決して「滅亡」とは考へず、希望を持って一年を過ぎましょう。



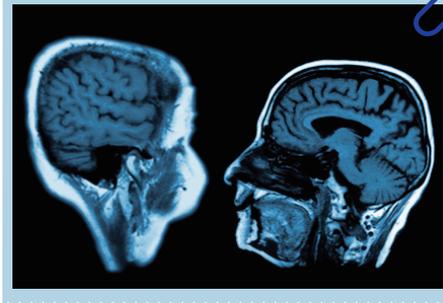
脳の老化が防げる日

脳科学の大発見 2011年度「小豆沢医学賞」(?)

昨年1年間に報告された世界中の医学研究から、私(平)が勝手に選んだ最高の論文がこれ! アメリカ、スタンフォード大学のワイスコーレイ博士らのグループは、脳の老化の原因となる物質を突き止めたとの成果を、2011.8月発行のNature誌に発表しました。本研究を足掛かりに、脳の機能低下を薬で抑制できる可能性が出てきました。

脳神経も再生される

かつて、「成人の脳では新しい神経が作られない」と考えられていましたが、その後新発見が続き、現在では成人の脳でも2か所(側脳室下帯、海馬顆粒細胞層)だけは神経の新生が起こっていることが明らかにされています。



この2か所の細胞は特に血管が豊富で血流が多く供給されていることから、血液を通して何らかの物質が作用しているのでは?と考えられてきました。

動物実験…驚きの結果!

その仮説を検証しようと、ワイスコーレイ博士らは以下の動物実験を行いました。

若いマウスと高齢マウスの体の一部を繋ぎ合わせ、血管も繋いで、2匹のマウスの体で血液が共有される手術を行ったのです。その後、5週間血液を共有させて生活させた後に、脳の海馬細胞顆粒細胞を調べると、神経新生に大きな変化がみられました。その結果はなんと、

- ▲高齢マウスの脳細胞 ⇒ 神経新生数が通常の2.5倍に増加↑
- ▼若いマウスの脳細胞 ⇒ 神経再生数が通常より25%程度減少↓

高齢マウスは、繋がれた若いマウスの血液の作用で神経新生が増え、若いマウスは高齢マウスの老いた血液によって神経新生が抑制されたようです。

つまり、若い血液には脳の神経細胞を再生・活性化させる物質があり、老いた血液には脳を衰えさせる物質が存在していることを示します。



血液中の脳老化物質を突き止めた!

研究では、血管を繋ぐ手術の代わりに血漿(血液中の液体成分)だけを注射しても同様の効果が得られたことから血液中の老化物質を探し求め、ついに6種の蛋白質物質を絞り込みました。

そのうちの1つはCCL11と呼ばれ、この蛋白質を注射された若いマウスでは神経新生が抑制され、学習や記憶能力も急激に低下する結果がでました。

以上の結果から、CCL11が老化に伴う脳の神経新生を抑制する因子の可能性が示されましたが、その作用の仕組みに関しては、まだ全く解っていません。

「死ぬまで衰えない脳」 実現の可能性

今回の研究結果は、脳の老化を予防できる可能性、それに一旦衰えて認知症が出た脳も若返る可能性が示された点で衝撃的です。この技術が実用化されるようになれば、誰もが天寿を全うする最期の瞬間まで、衰えない脳を持つことが夢でなくなるかもしれません。

けれども、そうなった時に社会全体へ及ぶ様々な影響も慎重に検討する必要はあると思います。



その①

新シリーズ開始 道端の神様

新年のスタートを機に今月から毎月、小豆沢近辺の町なかにひっそりたたずむ小さな祠や神仏像を1つずつご紹介いたします。

小さな神様たちはいつも近くで見守っていて下さるのに、普段私たちは意外とその存在に気づかないもので、これでは神様たちがちょっと可哀想…という気持ちでこのシリーズを始めることにしました。(全6回)

シリーズ初回にご紹介するのは、小豆沢整形外科を出て直ぐの「赤羽北3丁目」交差点から大橋病院さんの方に80m程歩いた所、TFO(株)さん敷地の壁の窪みの中に居られる小さな浮彫の仏様です。通院の帰り道などにお時間に余裕のある時、是非探してみてください。

